

以下、本文-----

複数施設研究用

【情報公開文書】

調節卵巣刺激の poor responder を予測する AI モデルの構築

1. 研究の対象

2017年4月1日から2021年12月31日までに東北6大学（東北大学、秋田大学、岩手医科大学、弘前大学、福島県立医科大学、山形大学）附属病院で初回の生殖補助医療の治療を受けた卵巣予備能が低かった方。

2. 研究目的・方法

生殖補助医療の治療を行う上で、卵巣予備能が低い方に対してどのような卵巣刺激方法がよいかを事前に予測する方法は確立していません。卵巣刺激方法には高刺激法と低刺激法がありますが、卵巣予備能が低い方に高刺激法を用いた場合、一定の割合で卵巣刺激に十分反応せず十分な採卵獲得数を得られないことがあります。その場合は治療に用いる注射薬が不必要に多くなってしまいますが、治療前に高刺激法で反応するかどうかを知る方法がありませんでした。そこで私たちは生殖補助医療を行った方の血液検査データや超音波検査所見などの治療前情報と、実際その方が受けた治療内容、採卵により獲得した卵子数などの情報をカルテから集積して人工知能モデルを用いて分析し、どのような方にどのような卵巣刺激法を使用すべきかを提案するモデルを確立する研究を計画しました。

この研究により、モデルが確立すれば治療前に適切な刺激方法をご提案することができるようになり、治療方針の決定に役立つのではないかと考えています。

この研究では、上記期間に初回の生殖補助医療を受けた方で卵巣予備能が低かった、山形大学医学部附属病院約100名と当院(秋田大学)を含む研究協力機関約500名を対象に、治療した当時の臨床情報を用いて解析を行います。

研究実施期間：研究実施許可日～2024年3月31日

提供を開始する予定日：2024年1月30日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：採卵時の年齢、妊娠分娩歴、不妊症の原因、卵胞期ホルモン値、血中 AMH 値、超音波検査による前胞状卵胞数、卵巣刺激法、採卵獲得卵子数、FSH 製剤投与量、治療による妊娠の有無

4. 外部への試料・情報の提供

データの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当院の研究分担者が保管・管理します。

5. 研究組織

研究代表機関

山形大学医学部附属病院 永瀬 智

既存試料・情報の提供のみを行う機関

秋田大学医学部附属病院 白澤 弘光

弘前大学医学部附属病院 福原 理恵

岩手医科大学附属病院 尾上 洋樹

東北大学医学部附属病院 高橋 友梨

福島県立医科大学附属病院 菅沼 亮太

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

当院における照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

担当者の所属・氏名：秋田大学医学部附属病院 産科婦人科 医員 岩澤 卓也

住所：秋田市本道1-1

連絡先：018-884-6163

iwasawat@med.akita-u.ac.jp

当院の研究責任者：秋田大学医学部附属病院産科婦人科 講師 白澤弘光

研究代表者：山形大学医学部附属病院産科婦人科 教授 永瀬智

-----以上